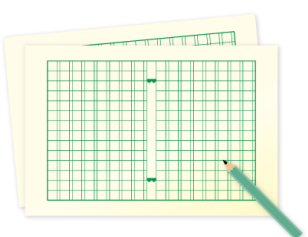


はじめての読書感想文

―書き方講座―



『みずたまのたび』

アンヌ・クロザ著

編

神栖市立図書館

感想文とは

本を読む前の自分、本を読んだ後の自分、読書を通して変化したことを作文にしたものです。

一、感想文が完成するまで

(1) 本を選ぶ

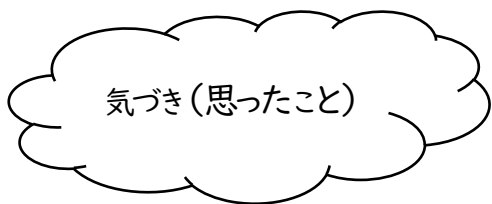
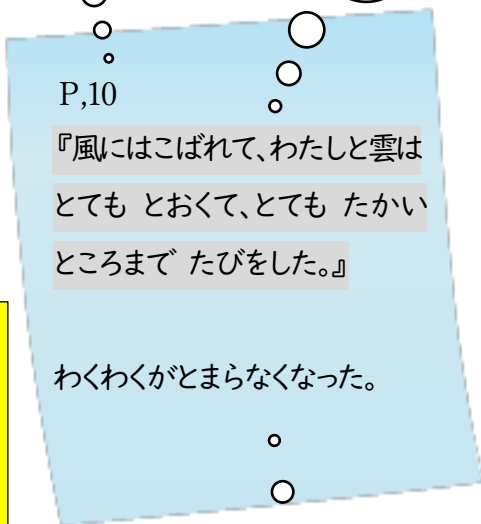
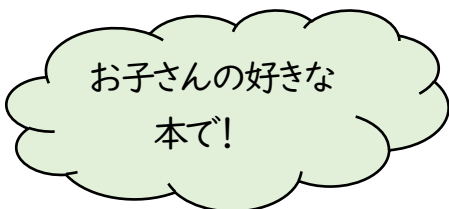
① 登場人物が、自分と共通点のあるようなキャラクター

② テーマ、ジャンルから(冒険、ファンタジー、動物家族、学校、友情など)。

※ 課題図書じゃなくてもOK!

※ 物語だけでなく自然・知識(科学)絵本などもいい!

(2) 読む ↓ 心が動いたところに付せん(メモ)



※ 図書館の本には付せんは貼れません。メモをはさんでおきましょう。

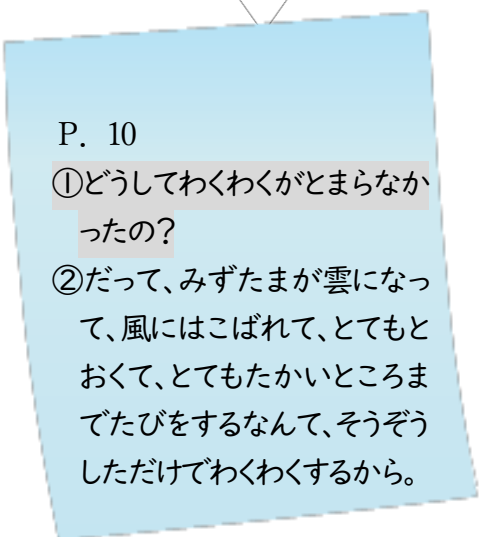
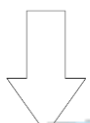
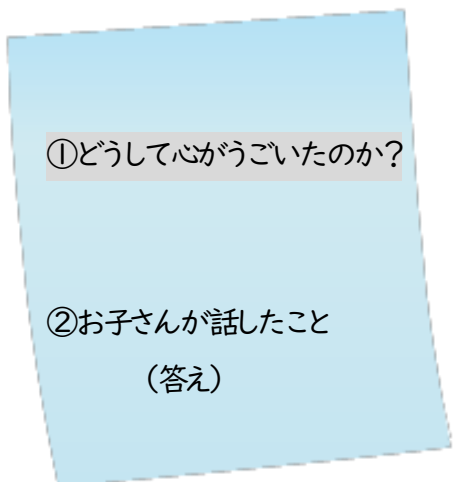
(3) 親子で対話

「どうしてそうおもったの」「なぜ、そこが気になるの」

「もし、じぶんだったらどうする」「どうして付せん(メモ)に○○ってかいたの」

「もし、まほうでおはなしをかえられるとしたら、どうしたい」

「どうしよう人物にへんしんするなら、だれになりたい」



(4) 文を書く

- ① 心が動いた文
- ② お子さんの話したこと(質問の答え)をセットに文を作っていく。



〈例〉

① どうしてわくわくがとまらなかったの？

② みずたまが、雲になって風にはこぼれて、とてもおどけて、たかいところまでたびをするなんて、そぞうするだけでわくわくがとまらないから。

① 質問と答えをセットにし、文を作っていく。

みずたまが雲になって、風にはこぼれて、とてもおどけて、たかいところまでたびをするなんてしたら、そぞうがぶくらんで、わくわくがとまらなかった。

② 言葉を足す

みずたまがへんしんすることをはじめてしまった。そのみずたまが、雲になって、風にはこぼれて、とてもおどけて、たかいところまでたびをするなんてしたら、そぞうがぶくらんで、わくわくがとまらなくなっちゃった。

③ 付せん(メモ)に残された言葉から、文を肉付けする。

言葉かけ 「みずたまは、どんなすがたにかわっていた？」

「いちばんおどろいたのはどこ？」「すがたをかえたのをみたことある？」



ぼくは、みずたまがへんしんすることをはじめてしまった。そのみずたまが、雲になって、風にはこぼれて、とてもおどけて、たかいところまでたびをするってしたら、そぞうがぶくらんで、わくわくがとまらなくなっちゃった。みずたまは、どこをたびしたんだろうとか、だれにあったんだろうとか、あたまの中でいろいろとかんがえながらよんでいった。

ポイント 1

擬態語を使おう！

「すべすべ」「わくわく」「ぴかぴか」

擬音語を使おう！

「ふわふわ」「ほかほか」「あつあつ」

ポイント 2

「うれしい」「↓」「とびあがるほどうれしい」

「かなしい」「↓」「ねむれなくらいかなしい」

(5) 下書きする
書き出しが大事!



① 結論(お子さんが強く感じたこと)からふくらませる。

② 「 」 会話文から書き始める。

③ お手紙ふうを書いていく。

(6) 題名を考える

△「○○○○」を読んで

◎付せん(メモ)からキーワードを探そう

例 みずたまのへんしん

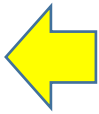
すがたをかえる水たま

みずたまのすてきなたび など

(7) 清書する

すぐに下書きしない!

まずは、前日書いた文を読み返し、音読してみよう。



気づきが生まれる

〈文の組み立て〉

おわり	中	はじめ
<p>本をきょうかけに考えたこと、学んだこと。 それを自分の生活にどう生かすか、これからの目標などを書いてまとめる。 一、二年生なので、主人公に話しかけるように書くといいですね。</p> <p>大事</p>	<p>柱(はしら) 主人公のこころの動き 新しい発見 気づき</p> <p>↑</p> <p>つながり(つなぎ) ことばを上手に使う!</p>	<p>① 本の紹介から書く この本は、水たまがいろいろなすがたにへんしんするお話です。 ② 本を選んだ理由から書く タイトルにおどろいた。みずたまが、たびをするってどういうことなのかしりたかったから。 ③ 主人公に呼びかけるように(お手紙) 「みずたまさん、すてきなたびができたね。」 ④ 結論から書く みずたまは、ぼくたちが生きるこの世界に、とても大切なそんざいなんだ。 ⑤ 心にのこった文から書く 「わたしはまた、みずたまにもどった。」</p>

中の部分には、本から読み取った中で共感したことを書くとよい。また、主人公の行動や考え方に似た体験談を書く。つまり自分自身のことを必ず入れる。全体の約5割! あらすじにはならないように!

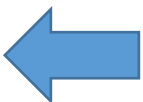
☆しつもんことたえをセットにして 文をつくってみよう。



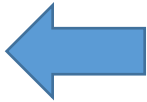
①	②

①しつもんことたえをセットにして文をつくる。

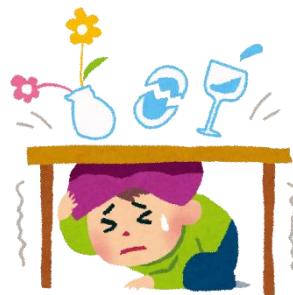
②ことばをたす。



③オキライに文をにくづけする。



オノマトペ(ぎたいいっ・ぎおんっなど)



二、作文用紙の使い方

- 一行目 題名
- 三マス下げる。
- 二行目 学校名・学年・氏名

書きはじめは、
1マス下げる。

みずたまのへんしん
〇〇小学校 二年 神栖 ココ
みずたまくん、きみはへんしんするのがじ
ようずだってはじめてしたよ。まるでヒー
ローみたいだね。

題名 本のタイトルには
『 』をつける。
例『お手紙』を読んで

ぼくは、さいごのページをよみおえたとき
「みずたまさん、またあおうね。こんどあう
ときは、どんなすがたにへんしんしている
のかな。たのしみだね。」
ってつぶやいた。

よかったね。

会話文「 」の2行
目は、「 」のとなり
には書かない。1マス
下げる。

句読点の打ち方
一番下のマスが文末になっ
てしまったときは、1マス
に文字と句読点を入れる。

文字数は八百字。題名と氏名は文字数には入らない
ので、三枚目の二行目まで書くとよい。

はじめての読書感想文―書き方講座―

「みずたまのたび」 アンチ・クロサザ 編

二〇二六年 四月一日 第一版発行

著者 高田悦子

発行 神栖市立図書館

〒三二四―〇二四四

茨城県神栖市大野原四丁目八一―一

TEL 〇二九九―九二―三七四六